すぐにできるテクニックで紙面に変化を

ちょっとしたテクニックを使って、紙面に目を引かせたり、読みやすいというイメージを与えたりすることができます。すぐにできる小技をご紹介します。

読まれる通信づくりのヒント⑤

「冒頭の一文字」を大きくする

以下の例のように、記事の冒頭の一文字を大きくしてみましょう。小見出しが入る段落ごとに大文字が冒頭にあれば、紙面に動きや変化が出て、読者の関心をひきつけることができます。

私たちは生きていく上で、イメージや感性だけでなく、論理的に考え、きちんと言葉を使って論理的に表現する必要があります。

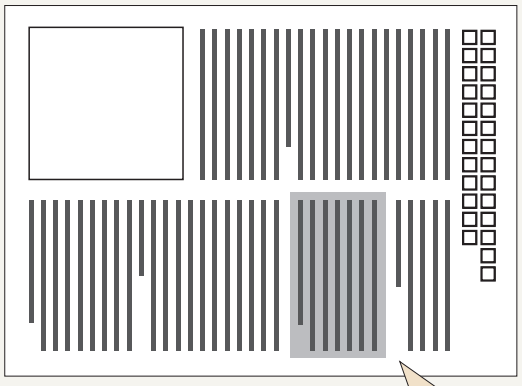
私たちは生きていく上で、イメージや感性だけでなく、論理的に考え、きちんと言葉を使って論理的に表現する必要があります。

作文を書いた後、子どもたちがお互いに評価する時間を設けたり、作品を掲示して友達のよい表現を自分の作品に生かしたりする工夫もしています。

作文を書いた後、子どもたちがお互いに**評価する時間**を設けたり、作品を掲示して友達のよい表現を自分の**作品に生かしたりする工夫**もしています。

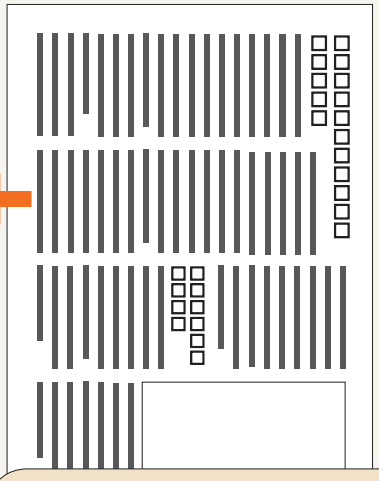
文中の書体を変える

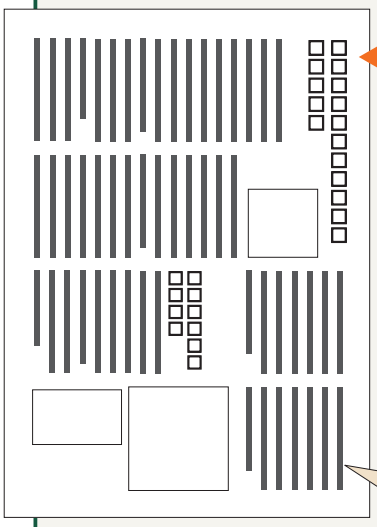
すべて同じ書体の記事にせず、要所要所（特に注目させたい部分）の言葉、あるいは文章の書体を変えて見ましょう。基本が明朝体なら、その部分のみ**ゴチック**や*斜め書体*に。これだけで紙面に変化が出ます。同様に、アンダーラインを引く方法もあります。



薄く色を敷く

２色以上の場合、記事の、ある段落のみ文章のバックに薄く色を敷くと、その部分が強調され、紙面に美しい変化をもたらします。１色でも薄墨をバックに敷くと紙面にメリハリが出ます。





「白」を上手に生かす

びっしりと文字が詰まっている記事は、読者に圧迫感を抱かせます。記事と記事の間には適当な間隔の「白い部分」をつくりましょう。紙面にゆとりを感じさせ、親しみやすく、また読みやすくさせます。